

乙 貞

第143号 通巻25巻 第4号

2005年11月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター

Tel・Fax 077-585-4397

〒 524-0212

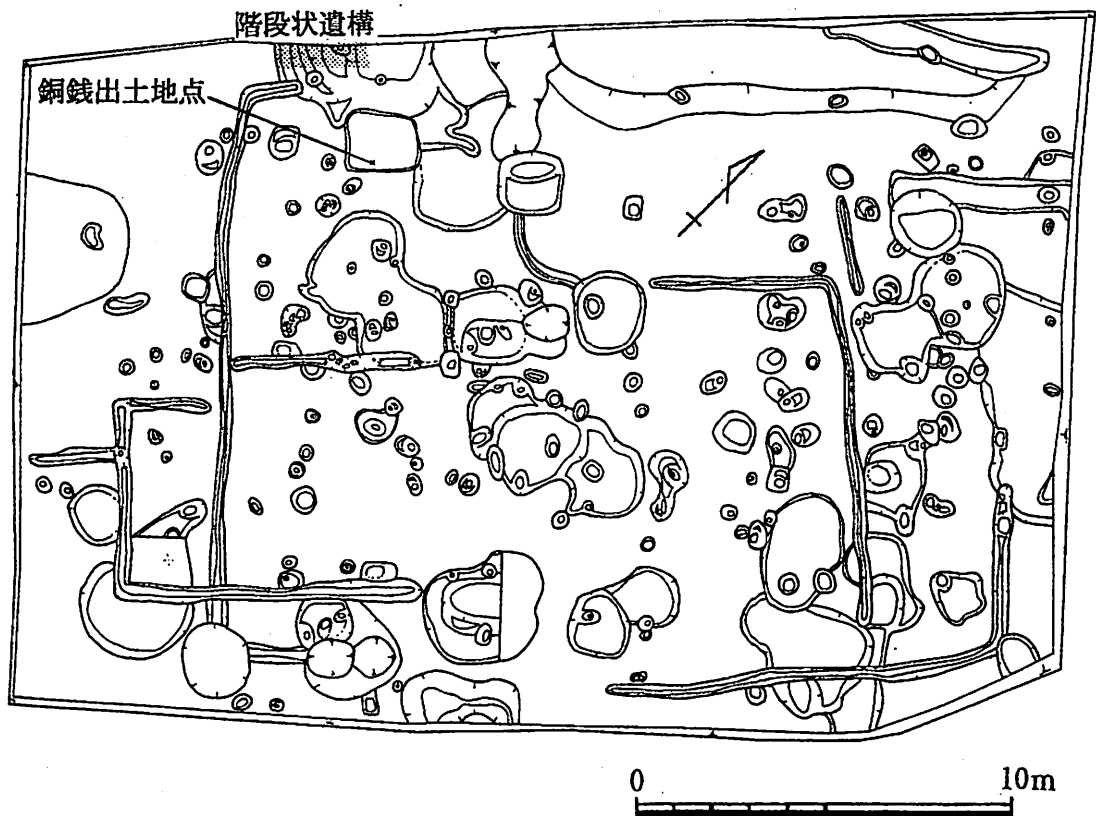
守山市服部町2250番地

発掘調査だより

1 欲賀南遺跡の調査

欲賀土地区画整理事業に伴い昨年度より発掘調査を進めていますが、欲賀神社の東側を現在調査中です。これまでに、室町時代から江戸時代にかけての建物跡や溝、土坑（大きな穴）などが見つかっています。建物の柱穴には、加工した花崗岩や自然石が残っているものもあり、礎石とみられます。また、土坑の中には階段状に石を積んだ施設をもつものがありました。階段には、加工した花崗岩や自然石の他、石塔の相輪を転用したものが使用されていました。この穴の深さは約80cmあり、底は水が湧き出す砂の層となっています。水を汲み易くするために、石の階段を設置したのでしょうか。

これらの遺構からは、信楽焼の播鉢や甕のほか、銅銭が十数枚出土しています。銅銭のうち1枚は「元豊通宝」と読むことができます。この銅銭は中国で初めて鑄造されたのが1078年ですが、中世の日本で宋銭が流通していたことがわかります。（小島）



▲ 欲賀南遺跡 P-3区遺構平面図

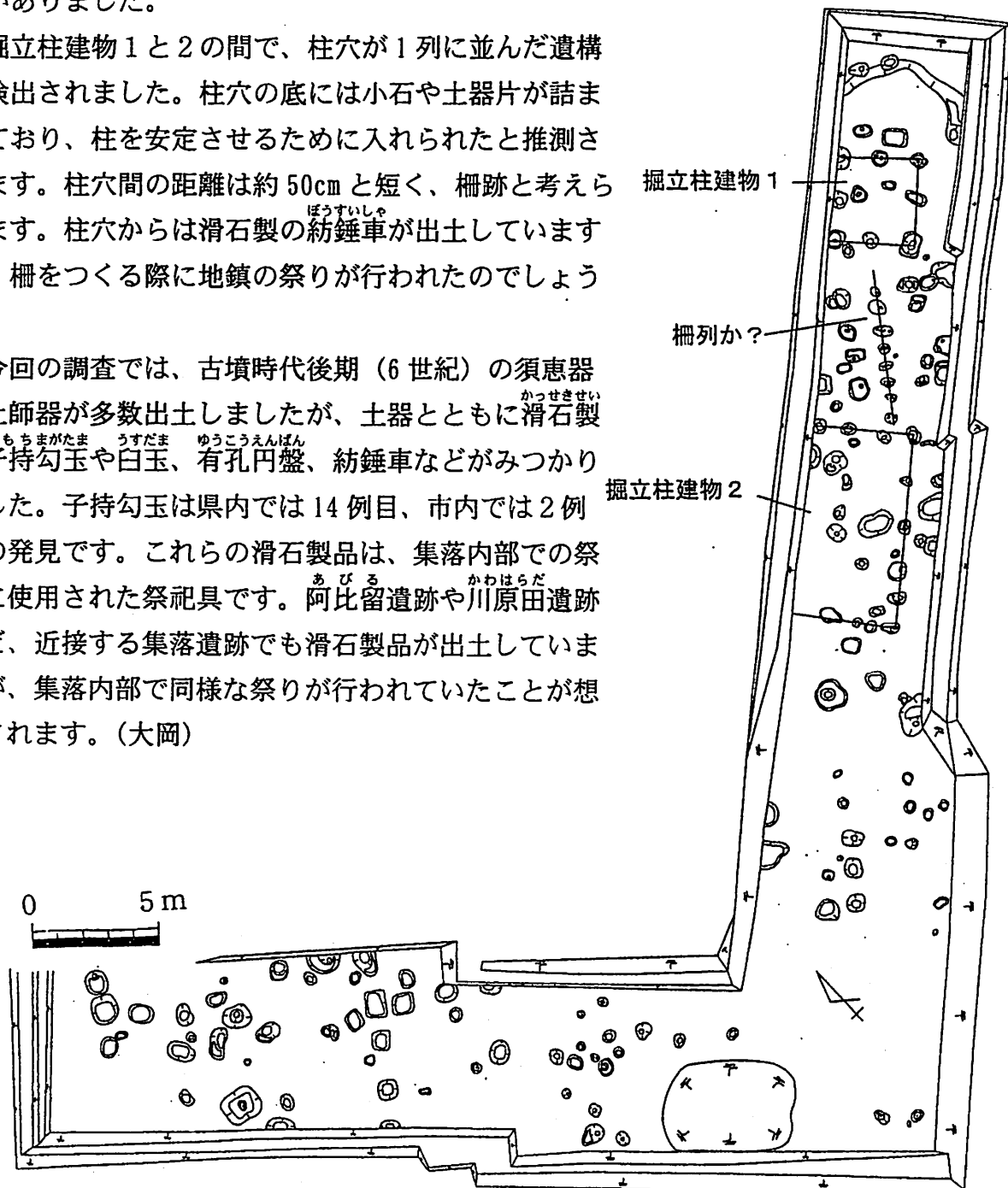
2 四反田遺跡の調査

宅地造成に先立ち 8 月末から実施していた四反田遺跡^{したんだ}の調査も 10 月下旬で終了しました。今回は調査区東側の調査成果について報告します。

調査の結果、柱穴や土坑、溝などが検出されました。柱穴には柱根^{ちゅうこん}が残っているものがみられ、柱穴配置からみて複数の掘立柱建物や柵^{さく}などがあったとみられます。掘立柱建物 1 は 2 間×2 間以上の規模で、柱間距離は 1.4~1.6m で最も大きな柱穴は直径 94cm、深さ 50cm を測ります。掘立柱建物 2 は 4 間×2 間以上あり、柱間距離は 1.2~1.8m を測ります。直径 1.2m、深さ 0.6m もある柱穴もあり、中には礎板^{そばん}とみられる板材が残るものがありました。

掘立柱建物 1 と 2 の間で、柱穴が 1 列に並んだ遺構が検出されました。柱穴の底には小石や土器片が詰まっております。柱を安定させるために入れられたと推測されます。柱穴間の距離は約 50cm と短く、柵跡と考えられます。柱穴からは滑石製の紡錘車^{ぼうすいしゃ}が出土していますが、柵をつくる際に地鎮の祭りが行われたのでしょうか。

今回の調査では、古墳時代後期（6 世紀）の須恵器や土師器が多数出土しましたが、土器とともに滑石製の子持勾玉^{こもちまがたま}や白玉^{うすだま}、有孔円盤^{ゆうこうえんばん}、紡錘車などが見つかりました。子持勾玉は県内では 14 例目、市内では 2 例目の発見です。これらの滑石製品は、集落内部での祭りに使用された祭祀具^{あびる}です。阿比留遺跡^{あひる}や川原田遺跡^{かわはらだ}など、近接する集落遺跡でも滑石製品が出土していますが、集落内部で同様な祭りが行われていたことが想像されます。（大岡）



▲ 四反田遺跡遺構平面図

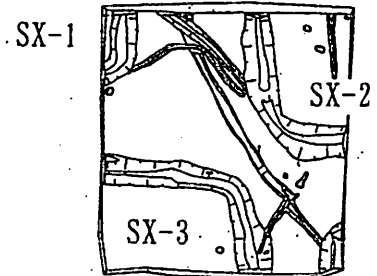
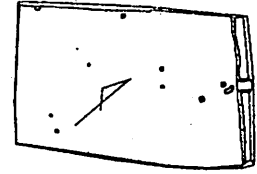
3 金森東遺跡の調査(36次調査)

道路改良工事に先立ち、今年5月より実施してきた金森東遺跡の発掘調査も10月21日をもって終了しました。7・9月号の乙貞で部分的に調査成果をお伝えしましたが、今回は調査区全体の成果について報告したいと思います。

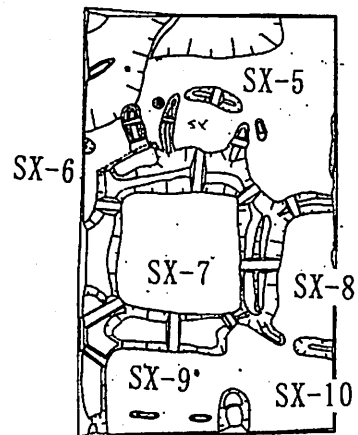
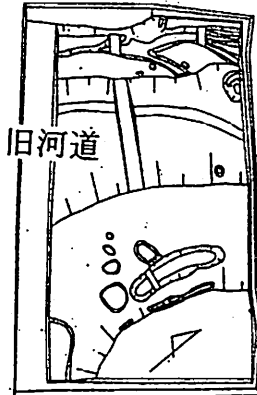
調査区北西側にあたる平安女学院前から約200mの区間の遺構密度は高くありませんが、全体に柱穴等の遺構が広がっていることがわかりました。柱穴から掘立柱建物が復元されるほか、竪穴住居も見つかっており、小規模な集落があったことが推測されます。集落の時期を特定する遺物は出土しませんでした。遺構の埋土からみて古墳時代及びそれ以前と考えられます。

調査区中央寄りの地点ではトレンチに平行して直線的に伸びる溝が検出されました。溝内からは信楽焼の甕などが出土しており、中世の遺構であることがわかりました。この溝を境にして字名が変わることから、^{つぼがかい}坪界に伸びる水路と考えられます。

調査区南東側の約100mの区間(右図)では、方形周溝墓や旧河道、溝など多数の遺構が検出されました。方形周溝墓は旧河道によって一部が壊されていましたが、10基以上存在することがわかりました。北西側の方形周溝墓(SX-1~4)は溝を共有せず、単独で造営されているとみられ、南東側(SX-5~10)ではお互いの溝を共有する特徴がありました。これらの方形周溝墓からは弥生時代後期の甕などが出土しており、時期的には余り差がないとみられます。北西側の墓群は台状部の一辺は10m前後とやや大きく、南東側の墓群は一辺6~7mと小型である傾向がみられます。被葬者のちがいが、墓群構成や規模に現れているのかもしれない。(畑本)



SX-4



0 20m



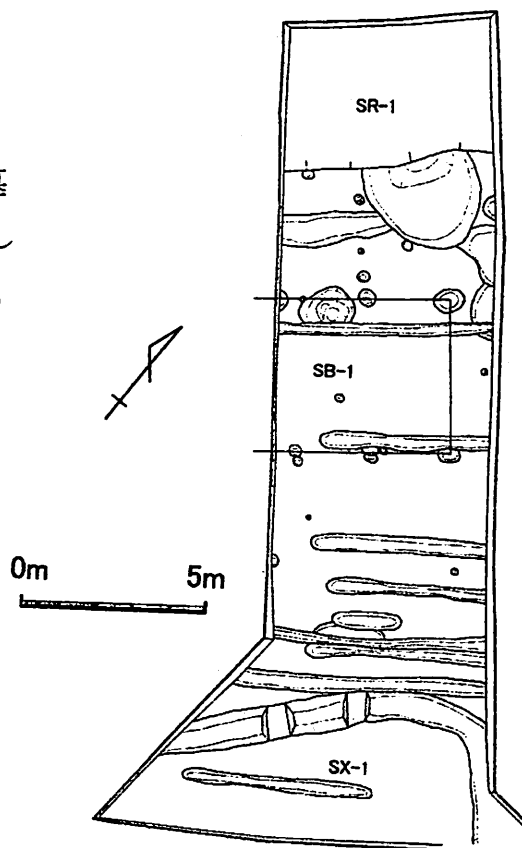
▲ 金森東遺跡遺構平面図

4. 焰魔堂遺跡の調査

今宿町の中山道西側で、宅地造成に先立ち9月下旬より発掘調査を実施しています。調査地は乙貞131号で報告された前方後方形周溝墓を含む墓群の南側に位置します。5箇所の特レンチを設定していますが、現在までに3箇所が終了しています。

T-1・3は遺構が希薄で、中世の柱穴、土坑などがみつかりました。T-2では旧河道(SR-1)と掘立柱建物(SB-1)を検出しました。このほか、古墳時代前期の方形周溝墓(SX-1)が検出されており、前方後方形周溝墓を含む墓群との係わりが注目されます。

今後、2つの特レンチの調査を行いますので、次号の乙貞で報告します。



▲ 焰魔堂遺跡 T-2 平面図

<<<<<お知らせ>>>>>

市立埋蔵文化財センターでは、平成17年度秋季特別展を下記の通り開催します。今回の特別展は、野洲川流域の弥生時代から古墳時代前期の遺跡群の動向から、ムラから「国」へ統合されていく歴史や、その時代背景について探ります。今回の特別展は、平成18年2月19日に実施するシンポジウム『^{くに}國・淡海に建つ』に先立ち、開催するものです。多数、ご見学下さるよう、御案内いたします。

記

- 1 開催テーマ 『國・淡海に建つ』
- 2 開催期間 平成17年11月20日(日)～同12月4日(日)まで(期間中無休)
- 3 開館時間 午前9時から午後4時まで
- 4 関連行事
 - ・講演会・スライド会 (無料)
 - 日時 平成17年11月23日(祝)午後1時30分から午後3時30分
 - 演題 「倭国の形成と近江」
 - 講師 大橋信弥氏(県立安土城考古博物館次長)
 - 場所 埋蔵文化財センター2F会議室
 - ・体験学習『勾玉づくり』
 - 日時 平成17年11月27日(日)午後1時より
 - 場所 埋蔵文化財センター玄関周辺
 - 費用 無料(定員・申し込み先着20名)
- 5 その他 特別展準備のため17年11月14日(月)から11月19日(土)までと後片付けのため12月5日から12月13日まで休館いたします。